

❖ チームメディカル設置の流れ

大野 弘校長は、医師を希望する生徒が毎年二十名は入学してくる実態を踏まえ、医学部進学に向けた指導を着任直後から実践してきた。成果がここ数年に現れ、医学部医学科に毎年数名合格するようになってきた。

この経験から、医学部進学を希望する生徒にチームを組ませ、チームで切磋琢磨しながら、三年間、刺激的なプログラムを組織的計画的に提供することで医学部進学を一層実現させることができると考えた。同時期、東京都教育委員会は、多様なニーズに応える教育施策の一貫として医学部進学を支援する施策を検討していた。

❖ チームメディカル設置宣言

平成二十八年一月七日チームメディカル結成宣言 校長文書より
戸山高校チームメディカル結成について

チームメディカルは、医学部進学を目指す生徒が入学から大学合格（浪人中のケアも予定）まで、同じ志を持つ生徒がクラスを越えて月に一回以上集まり、互いに協力し、切磋琢磨する中で進学希望を実現しようというものです。集まりでは、主に、医師としてのキャリア教育、生徒個々の成績と学習管理、教科や論文や面接指導、受験校決定支援などの総合的な進路指導をします。キャリア教育では、医師や大学医学部教授、医療系研究機関の研究者等の先輩の講演、模擬授業、見学、体験、医療に関わる課題研究等を行います。参加者には、一、二年生では一日三時間以上、三年生では五時間以上の自主学習を義務とし、時期に応じた教科の講習や論文添削および模擬面接を行います。学習状況と模試の結果を担当の教員が把握し個別に指導します。二年、三年ではそれぞれの時期に、小論文対策、面接対策を行うとともに、個人の各教科科目の達成状況（模試の偏差値等）と全国の大学の入試科目および配点とを勘案して最適

な受験校を生徒と担当教員が一緒に考えます（マッチングと呼んでいます）。二年でのマッチングは三年での選択科目決定の参考にします。三年生のセンター自己採点をもとにした最後のマッチングで、受験校を決定します。

❖ 戸山高校チームメディカルの誕生と活動

東京都教育委員会は、平成二十八年二月に都立高校改革推進計画・新実施計画を発表した。その中で、生徒の多様な進学ニーズに応える事業の一環として、医学部等への進学を希望する生徒がチームを結成し、互いに切磋琢磨しながら支え合う三年一貫の育成プログラムを実施する新たな取り組みを、戸山高校で行うと発表した。この決定を受けて、平成二十八年四月に、プログラム開発ならびに実施を担当する教員を配置したチームメディカルを立ち上げた。チームメディカル専任教員三名と学年、分掌等から選出されたチームメディカル連絡員九名が、医学部進学に向けた情報を交換しながら、組織的計画的なキャリア支援、学習支援をチームメディカル所属生徒に行っている。

❖ チームメディカルの具体的な活動

チームメディカルへの参加は、医師になるという強い意志をもっていること。高校一、二年生は、授業以外に、毎日三時間以上、高校三年生は五時間以上の学習を行うことが条件となっている。この条件を了解して、高校一年生が十九名、高校二年生が六名、高校三年生が六名、合計三一名でチームメディカルがスタートした。

四月のガイダンスで、チームに参加する心構え、学習方法、医師になる強い意志、医師として社会貢献する意義、全国にある国公私立の医学部医学科の概要説明が行われた。

参加者は、毎月一回以上のミーティングに出席している。ミーテ

インングでは、医師や研究者からの講演会、医学系外部教育機関からの情報提供、医学部や病院での体験等を行っている。また、自らの課題意識を論文にまとめることや、十二月の発表に向けた取り組みがスタートした。このミーティングに参加する過程で、医師になるという気持ちを一層高めている。さらに、チームメディカル参加者一人一人の生活指導、学習指導について、TM 担当教員が個々の生徒の生活状況を把握した上で、個別に指導助言を行っている。進路実現に向け受験校決定まで、経年データと学力テスト結果等を用いて、最後まであきらめさせない支援を行っている。加えて、医学分野で求められる探求心、人への思いやり、生命への畏敬の念を深めたり、人間関係をより良好に築くコミュニケーションスキルの向上などにも配慮し、魅力的な人間力の育成にも取り組んでいる。

・平成二十八年度年間活動(概要)

四月 ガイダンス 個別面談の開始 高3年の個別指導開始

学習時間・生活実態把握開始

五月 臨床医からの講演会

医学系外部教育機関からの情報

論文指導等の開始

六月 研究医からの講演 病院実習

小論文指導開始(高三)

七月 医学部・病院等での体験活動

クラウドを利用した学習時間把握

八月 医学部・病院等での体験活動

九月 論文中間発表

十月 最先端医療に関する講演

十一月 医科学系論文完成

二年生は論文要旨の英文化



4月 校長から TM 活動の説明



7月 都立病院体験
上 駒込病院
下 大塚病院



5月 臨床医からの講演



6月 臨床・研究医からの講演



十二月 論文の発表会(一、二年生)

外部評価を受ける

医学系外部教育機関からの情報

一月 最先端医療に関する講演

二月 チームコンセンサス形成研修

チームメディカル運営会議

(平成二九年度の事業検討)

三月 チームメディカル保護者会

医学系外部教育機関からの情報

特別支援学校医院内学級訪問

医学部受験体験会



1月 東京医科歯科大学からの講演



12月 東京都医学総合研究所研究者からの講演



2月 チームコンセンサス研修



12月 論文発表会



12月 医学系予備校からの講演



7月 自治医科大学研修

●医科学分野に進む意志が一層高まった(21名)				
そう思う	19	そう思わない	2	
割合%	90		10	
●医師になって社会貢献する気持ちになっている(21名)				
そう思う	19	そう思わない	2	
割合%	90		10	
●学習習慣がついてきた(21名)				
そう思う	19	そう思わない	2	
割合%	90		10	
●医師になるという強い気持ちが勉強のあと押しになっている(21名)				
そう思う	16	そう思わない	4	未回答 1
割合%	76		19	5
●医師になりたいが、学力不足が心配(21名)				
そう思う	18	そう思わない	3	
割合%	86		14	

病院体験(10名)			
満足%	普通%	不満%	
80	20	0	・自分の興味がある診療科が見学できた ・手術室が見学できた ・大規模な医療機器を見ることができた ・医師の方々とお話ができた。
医学部体験(自治医科大学+東京女子医科大学)10名			
満足%	普通%	不満%	
90	10	0	・救急救命体験 ・シミュレーションセンターでの体験 ・体験活動と施設見学(施設説明を含む) ・医学部の講義(画像を含む) ・研究室の話 ・内視鏡操作体験
都医学総合研究所13名			
満足%	普通%	不満%	
69.2	30.8	0	・実際の脳標本を観察 ・研究者との交流(生の声が聞けた) ・遠心分離実習 ・遺伝子の話 ・iPS細胞の観察 ・施設見学と研究者の仕事が知れた ・実験器具に触れることができた

アンケート集計(抜粋)

・講演会での学び

講演会での学び
具体的な仕事の内容を教えていただき医師の業務の難しさ、医師の重要性を学んだ。 来年度も今年度と同様の講演を聞きたい。
実際に戸山から行ったということで受験対策など様々なことが聞けたことや医師として働いている人や研究者として働いている人など色々な体験の話が聞けてよかった。 個人的には忙しいとは思いますが今医学部にいる人などの話もできれば聞いてみたい。
医師としての働き方を学んだ。
医師の中でも様々なジャンルがあることがわかった。
医師の実態を知ることができたのでよかった。
もっと病院体験などに行けたらいいと思います。 実際に病院に行ったり、講演を聞くことで、より医師になりたいとおもいました。
医師とは医学以外の知識もたくさん必要だということ。 医学部受験者の体験談
それぞれが自分の仕事に責任を感じて取り組んでいらっしゃると実感した
医師という仕事の素晴らしさや命の尊さを再確認できた
今の医学、生物学の学習の体系がどこに向かっているのかわかることができた。
研究者の方の話が多いので、臨床の方の話ももっと聞きたい
私生活のことやかなり個人的なことも聞けたこと
医師という職業の幅の広さを知ることができた。
医学的な倫理観について学んだ。
具体的に自分のなりたい医師像を見つけられた気がします。 最近の受験の体験談なども聞いてみたいと思うので、私たちに年齢の近い医師の方のお話も聞いてみたいです。
医師は他人とのコミュニケーションも大切であることを学んだ。 医者の方自身が感じている問題点や求められているものが聞けてとても良

・TMニュースの発行（平成二十九年一月三二現在）

平成二十八年年度 一号〜六号まで発行（戸山高校ホームページに掲載）

・平成二十九年度に向けた新たな取り組み

生徒から高い評価を得ている体験活動・研修活動等は、関係機関に継続依頼する。加えて、平成二十九年度は、学習支援面での取り組みを強化することを計画している。

- ① 新たな都立病院での研修と研修内容の工夫
- ② 医学部医学科・医科学系研究機関での体験研修の工夫と機会の増加

- ③ 個別の基礎力定着策の展開。

- ④ 個々の学力分析に基づいて、学力向上に向けた教科指導ビデオの配信と学習課題の提供。（Web上）

・体験研修等実施組織

東京都立大塚病院

・講演等をいただいた方々

- 東京都立駒込病院
- 東京都医学総合研究所
- 国立精神・神経医療研究センター
- 自治医科大学
- 東京医科歯科大学
- 東京女子医科大学
- 東京都立北特別支援学校

駿台予備校市谷校舎長

竹内 昇氏

セレンクリニック東京内科医・東京大学 医科学研究所附属病院先端診療部

客員研究員

藤田成晴氏 (S63)

東京都医学総合研究所病院等連携研究センター長

糸川昌成氏

同幹細胞プロジェクトリーダー

原 孝彦氏

駿台予備校御茶ノ水校舎長

宮辺 正大氏

東京女子医科大学遺伝子医療センター

松尾 真理氏

東京医科歯科大学教授

磯部 光章氏 (S46)

NPO法人 十六歳の仕事塾理事長

堀部 伸二氏